



教育センターだより

高岡市教育センター
令和6年10月11日



文化創造を目指して

高岡市教育委員会

教育次長・学校教育課長 津田 久

ここ数年、「文化の違い」について考える機会がたびたびあった。と言うのも、西条小学校長として3年間、横田、川原、西条の3小学校の統合に関わったからである。同じ高岡市内の小学校であるが、それぞれの学校にはそれぞれの歴史や伝統があり、校区は隣接してはいるもののそれぞれの地域の特色があり、住民や保護者の価値観や考え方も微妙に異なる。そのような三つの学校がその違いを乗り越え、一つの学校になるために何をどのように取り組んでいけばよいのか。3校の校長が何度も何度も話し合いを重ねた結果、最も重視したことは、子供を主語にすることである。そこで、大切にしたのは3校の子供たちの交流学習や交流活動を行うこと。取りかかりは学年ごとに、互いの自己紹介や学校・校区の自慢の紹介等、とにかくできそうなことから取り組んでいった。

ところで、この間、西条小学校で意識して取り組んだことが二つある。一つには、ふるさとを学びのフィールドとした授業や活動等を通して、自分たちの学校や自分たちの住む地域のよさを再認識し、愛着と誇りを育むこと。二つには、「みんなが楽しい学校を自分たちでつくる」を合言葉に、行事や児童会活動、閉校イベント等に関しては、子供たちが主体となって企画、実践することである。自分たちの学校や地域への愛着と誇りは子供たちの根っ子となり、他の学校や地域のよさも尊重する心に繋がる。また、子供たちが主体となる活動の経験は、新しい学校づくりにおいても、自ら積極的に取り組むようになると思ったからである。

3校の交流にあたって、できるだけ子供が主体となるように心がけたが、当然、当該学年の教

職員の事前打合せや共通理解、役割分担等が必要になる。そのため、子供たちの交流を進めることで、必然的に教職員の交流も深まり、教職員の主体性も発揮されていった。そうして、自己紹介から始まった交流は、3校合同の校外学習や宿泊学習にまで発展し、最終年度には、統合校の最高学年となる5年生が、「どんな学校にしたいか」をテーマに討論会を開催するに至った。子供たちや教職員の統合校への夢や期待は大きく膨らんだ。

さて、高岡市では令和2年度の国吉義務教育学校の開校以来、学校の再編統合が進められている。今後は、統合とは異なるが、施設一体型の小中一貫校の設置も順次計画されており、これまで以上に創意工夫を生かした効果的な小中一貫教育の展開が期待される。

私はこれまでの経験を踏まえ、異なる文化が一緒になるには、相手の文化を知り、尊重することが欠かせないと思う。それと同時に、新しい文化を創るという共通認識と気概が大切であると思う。

5月に高岡西部小学校の運動会を拝見した。児童も教職員も保護者も生き生きと躍動している姿に大変感激し、新たな学校づくりが着実に進んでいると確信した。また、6月と7月には、県外からの国吉義務教育学校への行政視察に同行し、小学校文化でも中学校文化でもない、小中一貫の新たな文化が着実に創造されていると実感した。

各学校の文化、小学校の文化、中学校の文化、それらはどれも長い歳月をかけて築かれたものである。その価値を認めつつも、高岡市における小中一貫教育と学校再編の推進は、「異文化理解」「多文化共生」を越えた、新しい「文化創造」を目指す取組である。

学び成長し続ける教師を目指して

1学期から夏季休業中にかけて実施した研修について紹介します。



今日的な教育課題に対応した学び

◇ICT活用研修会

第1回 4月24日(水) 牧野小学校 (参加者 35名)
第2回 7月29日(月) 五位小学校 (参加者 34名)



ICT活用推進委員会の先生方に協力していただいて実技研修を行いました。第1回は「高岡市小中学校情報活用能力の系統表」や「NHK for School」の効果的な活用法について研修しました。第2回はマイクロビットやビットパッカーレーサーを活用したプログラミング学習を模擬授業を通して体験しました。

◇運動あそび実技研修会

6月7日(金) 竹平記念体育館 (参加者 25名)

富山大学 澤 聡美 准教授をお招きし、幼児期や小学校における運動あそびについてご講義いただきました。実技では、子供の心身の発達に有効な運動あそびをたくさん紹介していただきました。参加者は、子供になったつもりで積極的に体を動かし、会場は笑顔であふれていました。



◇子供の心サポート研修会 — 児童生徒理解と対応の工夫 —

6月12日(水) 戸出コミュニティセンター (参加者 27名)



富山県総合教育センター教育相談部の客員研究主事を講師にお招きし、ポリヴェーガル理論を用いた児童生徒理解と対応の工夫についてご講話をいただきました。ワークショップでは、「気になる子」の問題行動の背景にある心情とともに教員自身の心情も「緑・赤・青」の3色のモードで振り返ることにより、教師が安定した緑モードで子供と接する大切さを実感することができました。

◇通常級での特別な配慮を要する子供への支援研修会

7月26日(金) 伏木コミュニティセンター (参加者 27名)

富山県総合教育センター教育相談部の研究主事を講師にお招きし、研修会を実施しました。知的発達に遅れはないものの学習面又は行動面で著しい困難を示す子供を担当する教員の割合が100%であるという現状から、特別支援教育が全ての教員が取り組むべきテーマであることを改めて実感しました。

疑似体験を通して、子供がどんな困難さを感じ、つまづいているかを理解したことは、グループ協議での活発な話し合いにつながりました。子供一人一人に合った本当に必要な支援を適切に選択し、自己肯定感を高めるよう心がけていきたいという思いを新たにしました。



◇外国人児童生徒教育研修会 — 外国人児童生徒等の教育における諸課題 —

7月31日(水) 戸出コミュニティセンター (参加者 18名)



福井大学の半原 芳子教授をお招きし、言葉の発達を中心に、外国人児童生徒等の教育についてご講演いただきました。

母語と第二言語の関係や生活言語と学習言語等について示唆をいただくとともに他県での取組について具体的な事例を紹介していただきました。参加者にとって、生の講義から新たな知見を学び、グループ協議を通して、外国人児童生徒や保護者との関わりについて考える機会となりました。

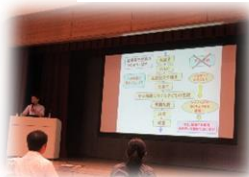
◇高岡市学力向上研修会 —「主体的・対話的で深い学び」を目指して—
8月2日(金) 戸出コミュニティセンター (参加者39名)

大妻女子大学家政学部の澤井 陽介教授をお迎えし、学力向上研修会を行いました。講演の冒頭では、各校で研修を牽引している参加者に対して、教員の若返りが急速に進む中で教科を限定した研修では間に合わないこと、教科横断的な研修を進める必要があることが語られました。授業が一問一答で終わらないよう「みんなどう?」「他に言える?」と教師が壁となって子供の意見を打ち返していくこと、うなずいたり反応したりする聴き手を育てることで安心して対話ができる雰囲気醸成されるとの話がありました。主体的な学びにつながる課題設定や自分でまとめる振り返りの在り方等を具体的にご提示くださり、実りある研修会となりました。



◇道徳教育研修会—「主体的・対話的で深い学び」を生む道徳科の授業—

8月19日(月) 戸出コミュニティセンター (参加者58名)



畿央大学教育学研究科の島 恒生教授をお迎えし、道徳教育研修会を行いました。目指す道徳科の授業とは、教師が教える「伝導型」ではなく、子供が「考えて議論し、自身でつかむ」授業であることを教えていただきました。グループ協議では、「裏庭での出来事」「まどがらすとさかな」の教材文を基に、学年に合ったねらいをしっかりと理解した上で、道徳的価値レベルの発問がどれなのかをグループごとに考え合いました。

普段の生活の中で出会わない言葉は子供の口からは出てこないなど、学級の言語環境が大きな役割を果たしていること、授業の中でダイヤモンドの原石のような言葉が子供から出てくるのを待つ大切さなど、多くの学びのある研修会になりました。

教員の資質向上

◇専科教員研修会

8月6日(火) 戸出コミュニティセンター (参加者17名)

専科教員研修会では、教科指導員をアドバイザーとし、算数・社会、理科、外国語、実技(体育・図画工作)のグループに分かれて互いの実践を共有し、専科ならではの課題や悩み等について話し合いました。2学期は、小中連続した学びの実現に向け、それぞれの教科指導に生かせるよう中学校での授業を参観する研修を行っています。



教養講座 ～教員の高岡再発見～ (NEW)

◇高岡再発見探訪 7月25日(木) 戸出コミュニティセンター (参加者33名)



富山短期大学 宮田 伸朗 名誉教授をお招きし「福祉の先人たちに学ぶ」と題してご講演をいただきました。高岡の教育や福祉に携わってきた先人の功績や福祉施設等、参加者にとって多くの気付きがあり、視野を広げる研修会となりました。

◇高岡の伝統工芸を学ぶ 7月30日(火)、8月6日(火) ZIBA (参加者6名)

高岡漆器伝統工芸会の職人の方を講師にお招きし、「青貝塗り」の制作工程を体験しました。参加者は、職人さんの高い技術に感動するとともに身近にある高岡の伝統工芸品や歴史を見つめ直す機会となりました。



◇高岡わくわく落語寄席 7月30日(火) 伏木コミュニティセンター (参加者51名)



高岡市出身の落語家 三遊亭 美よし さんをお招きし、落語を2席(「時うどん」、「井戸の茶碗」)と小・中・高校時代のエピソードや落語の世界に入るまで、入門してからの現在に至るまでの話をお聞きました。初めて生の落語を聞いた参加者も多く、日本の伝統文化に触れる機会となりました。落語の面白さに引き込まれるだけでなく、美よしさんの表情や語り口調、影響を受けた教師の一言等、笑いとともに関わらちと関わる上で大切なことについても感じることができました。

◆高岡イングリッシュセミナー ‘2024’ ◆

8月22日(木)に、伏木コミュニティセンターを会場にして「高岡イングリッシュセミナー ‘2024’」を開催しました。高岡市内の小・義務教育学校(前期)6年生27名と中・義務教育学校(後期)3,9年生24名が参加し、郷土の魅力に触れながら英語に親しむ活動に取り組みました。

午前中は、英語を使ったゲームで交流したあと、ワークショップでポリネシア文化や他国の壁画アートについて知り、実際にポイボールを使ったダンスや壁画アートを体験しました。その中で12名の外国語指導助手と英会話を楽しんだり、クイズに答えたりしました。

午後からは、12の中学校区ごとに分かれて、校区の特色を英語と画像で紹介する練習を行った後、互いの紹介を見合いました。参加者からは「ワークショップで外国の文化を体験できてよい経験になった」「高岡について知らなかったことを他の中学校区の発表で知ることができてよかった」「ALTが優しく声をかけてくれて、もっと外国人と交流したいという意欲が高まった」などの感想が聞かれました。



★ 高岡市適応指導教室(きらら子教室)の紹介 ★

悩みを抱える児童生徒や保護者との相談活動、不登校児童生徒への援助等を行っています。対象児童生徒についての相談は随時受け付けております。(TEL 20-1656)

◇日常の活動…教育相談、学習活動(スタディタイム)、体育活動 等

◇特設の活動…ものづくり体験講座、校外学習、絵手紙教室、親子交流会、氷見市・射水市との交流会 等

◇関連活動 …保護者個別懇談会、学級担任との情報交換会、高岡地域親の会 等

貸出中! 申込は、☎20-1204まで

◆プログラミング教材◆

- ・マイクロビット 300セット
- ・ビットパッカー(4輪車) 40台
- ・湿度センサー 40個

◆視聴覚教材◆

- ・DVD
- ・紙芝居

◆研修図書・教育資料◆

- ・教科書
- ・教育論文
- ・指導案 等

◇初任者研修会、若手教員研修会

高岡市では、独自の初任者研修会と若手教員研修会を実施しています。それらの研修会の様子は、後日発行する「若手研だより」や「センターだより 235号」でお知らせする予定です。



一 所員紹介一

所長	高松 毅
次長	大野 宏子
教育専門員	林 由香
指導主事	眞田 武志
指導主事	木越 明子
教育相談員	永井 誠
教育相談員	泉 佐知子
教育相談員	大門 信吉
事務員	関 由里子
事務員	上坂 哲也

高岡市教育センター

〒933-8601 高岡市広小路7番50号(学校教育課内)

TEL 20-1204 FAX 20-1667

ホームページ で検索!